まだなし

moko

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

まだなし

【Nコード】

N8502K

【作者名】

moko

【あらすじ】

社旗の仕事に疑問を持った主人公が自ら仕事を作っていくこうとしています。みんな応援してあげてください。

ネカフェから書いていたら時間が無くなりそうなので、急ぎ足に書いてしまいました。まだ途中です。すいません。

なにをやっているんだろう

俺は何をやっているんだろう。コンビニのアルバイト中、ゴミ箱のごみを替えながらそう思った。俺はもっと、俺が輝くための時間を作り、大学に行っただんではなかったのだろうか。高校のころから憧れていた夢に向かって、その夢を実現するために俺は時間稼ぎとして、あの4年制の大学を選んだのではなかったのだろうか。

大学に入り、その期間中に実力をみにつけ、在学中にデビューしてしまえば将来は明るいものだと思っていた。デビューしてしまえばこっちのものだとばかりに、大学のことは何一つ調べず、ただ本当に時間を作ってくれる場所なんだと勝手に思っていた。俺の大学の授業に鼻から突いていく気なんてないという強がりも、半年で終わってしまい、時間と金の無駄だと、かっこつけて休学届けを出してしまっていた。そして同時にこんな授業に必死でついていっている同級生を見下してもいた。そういう態度が表に出ていたからなのかはわからないが、自由に座れる、あまり広くはない教室に、一人はよく目立っただろう。

ここで大学の授業についていけないことに気づけばよかったのだが、俺には夢があるとはかりに、一人気持ちをあさっての方向に切り替えていた。

よし、やるぞ！。と、情熱は10分ももたず、大学入学と同時に始めていたアルバイトの給料で買ったプレイステーション3の電源をつけ始めていた。気づけば5時間は立っていただろうか。アルバイトまで後30分程ある。早めについても特に誰かと話すこともないし、家についても特にやることはない。いつもこの短く長い時間が

とて苦痛でたまらなかつた。ゲームで時間をつぶしてもいいのだが、30分というわずかな時間ではとてもやる気はおきなかつた。25分後ぐらいに体力がやたら多いボスにでも出くわしてみる。俺の焦りが原因でパーティーに迷惑がかかってしまうのではないか！

「くそお。時間なんてなければいいのに。」

そんな妄想で30分が過ぎ、億劫な7時間が始ろうとしていた。

お金がもらえるので最初のうちは子供のように喜び励んでいたが、もらえることがあたりまえになってしまい、感覚が麻痺したのか現在は仕事に全くと言っていいほど熱が入らない。バイト仲間で唯一普通の状態で話すことができる女の子がいるのだが、最近では仕事というよりもこの子に会うために来ていると言っても過言ではない。女の子といっても、俺より7つも年上なんだが、あまりきにしていない。見た目は20やそこらのかわいい女の子だ。発言や態度を除けば。仕事をそっちのけにさせるのは彼女のそいつた部分が一番だった。かわいい女の子が下ネタ連発の、にやーにやーした態度をとれば若いペーパーの俺なんていちころだった。俺だけにやっていたわけではないが、思い込みの激しい俺は彼女をだんだんと気にし始めて行ったのである。

俺が一年もたつて仕事に慣れ始めたころ、彼女と同じ時間にシフトに入ることができた。初めのうちは徐々に会話でお互いの心を締めあうとか、そんなものは無かつた様なきがする。彼女はあそこがかいーだの、俺の股間が小さいだの興味ないだの、どこか会話に下ネタを混ぜなければ気がすまないような調子で会話をしてくるのだつた。

そのほかのいくつかの会話も、彼女が露骨に表現をするのでいちいち驚かざるを得なかつた。ずっと家でゲームやテレビを見てすごすことが多かった内にこもりがちな僕にとって、彼女と出会う毎日の日々はとても楽しくて仕方が無かつた。と同時に、もう一人の自分を目覚めさせてしまうきっかけにもなってしまった。

アルバイトが終わり家に帰れば、晩御飯が待っている。家にはそ

れ以外の物はみあたらない。父親は仕事だ。帰ってきてても別段話すことは無い。いや、話したく無いっていうのが本音だろう。俺が7歳になるあたりから父親は俺と話すことは止めてしまった。弟が産まれたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8502k/>

まだなし

2010年10月11日07時53分発行